

【参 考 資 料】

以下、参考資料として、各監査対象機関から提出された監査調書より抜粋して掲載している。

- 資料 1 監査対象機関の概要
- 資料 2 重点研究テーマ一覧表
- 資料 3 研究成果の移転・普及の状況
- 資料 4 知的財産権の状況
- 資料 5 監査対象機器の保有状況
- 資料 6 使用頻度が低い機器の状況
- 資料 7 機器の処分状況

資料1 監査対象機関の概要

機 関 名	総合理工学研究機構			
所 在 地	甲府市大津町2094			
設 置 的 目 的	総合理工学研究機構は、県立試験研究機関の人的資源(研究員)や設備、ノウハウを横断的、有機的に連携させるとともに、大学や企業とも連携、調整を行う中で、個々の試験研究機関等では取り組みがたい領域で、新しい技術や、新しい産業創出につながる研究開発を行うために設立された			
設 置 時 期	平成17年4月1日			
組 織 体 制 (H19.4.1 現在)	名譽顧問(非常勤) 総 長 — 事務局長 — 次長 — (非常勤) (兼務)			
	総務・知財スタッフ 特別研究員(兼務)3 事務1 臨時職員1 研究管理スタッフ 特別研究員3 研究スタッフ 研究員20(兼務)			
主 な 所 掌 事 務	①複数の県立試験研究機関にまたがる横断的研究や産学官共同研究等の企画・進捗管理	研究職 行政職(事務) 行政職(技術) 現業職 臨時職員 非常勤職員 計(人)		
	②産学官連携のコーディネート	3 (20) 2 (1) 0 0 0 1 2 8 (21)		
③知的財産に関する情報提供及び相談				
19年度の主な研究テーマ	研究概要	研究期間(年度)	19年度研究費支出額(千円)	研究成果
地域農産素材等の機能性解明と高付加価値製品の開発	県特産野菜等の機能性成分の分析と評価を行い、機能性が明らかになった穀物、野菜、牛乳等、各種農産素材を用いて、機能性食品を開発する	17～20年度	9,583	本品特産野菜のケルシン、水かけ菜および新製物キアアに、抗酸化活性を示すポリフェノールが多量に含まれていることが明らかになった
未利用農林産物系バイオマスの利活用技術の開発	従来破棄していた農林産物残渣から燃料用エネルギーを生産するシステムの開発とエタノール抽出残渣の肥料化技術を開発する	17～19年度	4,162	これまでは、水田に隣接され、メタンガス発生の原因となっていたエタノール回収後の残渣が多量の炭素を含み、焼燐によってエタノールを生産しることが明らかになった
栽培条件の異なるアブラムシ甲州」を用いたアブラムシの個性化醸造による個性化醸造技術の確立に関する研究	県内4区域における成熟度別甲州アブラムシ中の香気成分の解明と醸造法別による香気性アミノ酸の比較を行い、新しいタイプの醸造技術を確立する	17～19年度	7,885	収穫時期や圃場間の香気成分を解明し、またアブラムシを用いた醸造方法によって香りの強さを改訂した
農林水産物の鳥獣被害に対する防除対策の研究	山梨の地形を軸にした鳥、獣(シカ)の行動、特性等、科学的な知見を十分踏まえた上での数値管理技術の開発や、鳥獣害の効果的な防止技術の開発を行う	18～19年度	2,978	県内のカワラ繁雑地において、鳥の群化を阻止する簡便な方法を開発し、カワラの個体数管理を行い、かつ内水面漁業が受ける被害を軽減した。開発した方法を特許出願した
アブラムシ殺剤の浸透を活用した家畜排泄物の低減化技術の開発、堆肥の肥効向上、堆肥化および環境負荷低減化技術の開発	家畜排泄物の堆肥化における臭気低減化技術の開発、堆肥の肥効向上、堆肥化による土壌および浸透水への影響評価。さらに、家畜排泄物の堆肥処理過程におけるアブラムシのライフサイクルを抑制し、臭気低減化技術を開発	19～21年度	18,437	豚糞の堆肥化の際に発生する悪臭の低減に効果があり、かつ作物の収量増加に効果が見られた
19年度に実施した研究テーマの総数			7件	

※ 組織体間の職種欄の()書は、他の監査対象機関等との兼務職員の数で外数となっている。以下の機関も同様。

機関名	衛生公害研究所					
所在地	甲府市富士見1-7-31					
設置目的	衛生公害研究所は、日本住血吸虫病対策を目的に設置された診療、検査、研究部門を含めた研究所として創設されたが、今日では県民の健康と安全・安心な生活環境を守るため、関係行政部局、保健所、林務環境事務所と緊密な連携の下に、保健衛生・環境保全に関する科学的・技術的・施設的中核機関として、調査研究・試験検査・研修指導及び情報の収集・解析・提供を行うことを目的とする					
設置時期	昭和24年5月					
組織体制 (H19.4.1現在)	医師 (兼) 研究管理幹事	企画情報科 研究管理幹(1)部長(3)				
	所長——副所長——次長	総務スタッフ事務2 生活科学部 微生物部 環境科学部				
研究職	行政職(事務)	行政職(技術)	現業職	臨時職員	非常勤職員	計(人)
18	3	1	1	1	2	26
主な所掌事務	①生活衛生(飲料水・温泉、食品残留農薬、医薬品等)に係る試験検査及び調査研究 ②病原微生物(細菌・ウイルス)、衛生動物・寄生虫、空中飛散花粉に係る試験検査及び調査研究 ③環境汚染(水質汚濁、土壌汚染、大気汚染、廃棄物、悪臭・騒音・振動等)に係る試験検査及び調査研究					
19年度の主な研究テーマ	研究概要	研究期間(年度)	19年度研究費支出額(千円)	研究成果		
県内産農作物における農薬の使用実態と残留農薬調査	県内での農薬の使用実態や散布状況等を調査し、検出される農薬の種類を説明する	18～19年度	697	農家で使用した農薬が、どのように残留農薬検査で検出されるのかを明らかにできた		
食中毒および発癌下痢症事例から分離されたサルモネラ菌の薬剤耐性に関する基礎的調査研究	耐性菌の血清型、耐性型を調査し、Rプラスミドの有無、さらにフラグメントプロファイルを検査することにより、耐性菌の解析を行い、耐性菌対策の基礎的資料とする	18～19年度	46	サルモネラの薬剤別耐性率や耐性率の高い血清型とその耐性型を把握できた。また、薬剤耐性化の一端の機構であるRプラスミドが以前より低率であるが確認された		
携帯端末を用いた湖沼観察	湖沼の内部水流を観察するために、携帯端末を搭載した漂流ブイを用いる手法の有効性を検討する	19年度	148	本法により、湖内流の観測が行なうことができることが確認できた。また、表層の湖内流は風による影響が大きいため、水深が深い水層は表層とは異なる動きをすることが明らかになった		
騒音レベルの指標と合わせた指標を作成すべく、山梨県内における生活上多々発生している様々な騒音を測定し、指標作成の基礎データとする	これまでの騒音の指標とされたテーマは古いため、現在の実情に合わせた指標を作成すべく、山梨県内における生活上多々発生している様々な騒音を測定し、指標作成の基礎データとする	19年度	25	山梨県内の公共交通機関、店舗、作業場等で騒音を測定し、51の音源において、118のテーマを採取した		
19年度に実施した研究テーマの総数	6件					

機関名	環境科学研究所					
所在地	山梨県富士吉田市上吉田字剣丸尾5597-1					
設置目的	環境科学研究所は、本県の将来を見据え、子見的・予防的な観点に立った環境行政の展開を支援することを基本姿勢として、「教育」、「情報」、「交流」の各機能を通じて、環境問題の解決、環境で負荷をかけた「環境教育、自然と人の生活」とが調和した県土の実現を支援することを目的とする					
設置時期	平成30年度					
組織体制 (H19.4.1現在)	特別研究員(1人)・研究管理幹(2人) 各員研究員(3人)	特別研究員(5人) 自然環境 富士山火山研究部				
	所長——副所長	環境健康研究部 地域環境政策研究部				
研究職	行政職(事務)	行政職(技術)	現業職	臨時職員	非常勤職員	計(人)
12	(1)	6	0	0	10	46
主な所掌事務	① 自然環境・富士山火山に係る調査研究 ② 環境健康に係る調査研究 ③ 地域環境政策に係る調査研究 ④ 環境教育の推進 ⑤ 環境情報の収集及び提供					
19年度の主な研究テーマ	研究概要	研究期間(年度)	19年度研究費支出額(千円)	研究成果		
山梨県内の湖沼堆積物に記録された環境情報の時空分析	富士山麓及び甲府盆地における湖沼堆積物を分析し、環境変遷の解明をすることにより、将来の本県の環境予測の基礎資料とする	19～23年度	1,770	富士山の自然擾乱として「雪崩がしばしば発生し、樹生に大きな影響を与え、雪崩による攪乱クワイクワや発生から50年代に比べてより真つた森林遷移が明らかになっており、遷移率30%である		
富士山五合目樹木限界の生態系に攪乱が及ぼす影響の解析に関する研究	国際的な糧米地である富士山五合目限界の生態系に攪乱が及ぼす影響の解析に関する研究	19～24年度	2,025	富士山の自然擾乱として「雪崩がしばしば発生し、樹生に大きな影響を与え、雪崩による攪乱クワイクワや発生から50年代に比べてより真つた森林遷移が明らかになっており、遷移率30%である		
富士山における環境指標生物を対象とした保全生物学的研究	山梨県環境基本計画に沿い、富士山に生息する環境指標性の高い生物群を対象に、その保全生態を解明する	19～24年度	1,563	ツキノワグサの多様性保全における人的管理の重要性が判明した。ツキノワグサの生息地の豊凶との関係が一部解明された。遷移率30%。		
森林と高原の環境を指標生物を対象とした保全生物学的研究	本県自然資源の活用により、自律知識や免疫機能、脳の活動などを測定することによりツキノワグサの環境効果を示す	18～22年度	1,774	森林政策により粘菌免疫機能が高まることと森林環境の反復利用が血圧を低下させることが明らかになった。指標ツキノワグサの標準地では、活性酸素による人体への影響も分かっていた。遷移率40%。		
中山間地域における交流型地域環境資源管理システムの構築に関する研究	中山間地域における交流型地域環境資源管理システムの構築に関する研究	19～23年度	1,372	土地利用による生物種の減少から人々の関わりからみた自然環境の質を評価するとともに、自然との関わり(QOL)を明らかにした。遷移率40%。		
19年度に実施した研究テーマの総数	31件					

機関名	森林総合研究所												
所在地	南巨摩郡増穂町泉勝寺2290-1												
設置目的	森林の適切な管理、林業・木材産業の健全な発展を図るための試験研究・技術開発・普及啓発を行う												
設置時期	平成6年4月1日												
組織体制 (H19.4.1現在)	技術指導幹1・研究管理幹1・客員研究員(1) 普及指導幹1 所長——次長1——												
	総務課——普及指導部—— 森林環境研究所—— 資源利用研究所—— 富士吉田試験圃—— 南都木育植物園—— 八ヶ岳実用植物園—— 研修・企画科 其他5 普及指導科 其他1 森林・青森科 研究員1・其他1 森林保護科 研究員1 資源利用科 研究員1 特用林産科 研究員2・其他1 木竹加工科 研究員2・其他2 機械化技術科 研究員1・其他4 南都木育植物園 其他1												
研究職	11	行政職(事務)	4	行政職(技術)	10	現業職	4	臨時職員	1	非常勤職員	10	計(人)	40
①森林および林業に係る各種試験研究に関すること ②木材の利用開発に係る各種試験研究に関すること ③林業者及び林業指導者の研修に関すること ④林業技術の普及および林業の経営指導に関すること ⑤林木育種事業に関すること													
主な所掌事務 ①森林および林業に係る各種試験研究に関すること ②木材の利用開発に係る各種試験研究に関すること ③林業者及び林業指導者の研修に関すること ④林業技術の普及および林業の経営指導に関すること ⑤林木育種事業に関すること													
19年度の主な研究テーマ	研究概要	研究期間(年度)	19年度研究費支出額(千円)	研究成果									
長伐期施業推進に対応した育林技術の開発	ヒキ、ヌギを対象とし、長伐期施業推進のために必要な林分調査、生態学的な測定を行い、90年～100年生を越える森林を対象とした林分収穫予想表、長伐期林の保育管理指針の作成を試みる	18～22年度	327	これまでの収穫予想表では、90年生以上のヌギ・ヒキの生長量を予測することができなかったが、本研究により生長量を予測する手段開発の糸口が明らかとなった。この結果を受けて、今後は保育管理指針の作成を行う									
カワラナカイガラムシ被害原因と対策	県内で急速に拡大しつつあるカワラナカイガラムシ被害について、その進行から被害回復プロセスを明らかにし、被害の発生を把握する。そこから今後の被害予測および被害対策と被害材の活用方法を検討する	19～21年度	1,386	カワラナカイガラムシの被害拡大の原因が明らかとなった。また、被害材では天敵微生物が繁殖し、被害が終息に向かう可能性があることが明らかとなった。被害材の一部はシイタケ栽培用の原木として利用できる可能性が示された									
生態的プロセスを重視した針葉樹人工林の林種転換	山梨県国有林管理計画では「地位下」と判定された林分の多くについて、経済林から公益林へと作業田を変更することが想定されている。そこで効果的な林種転換方法を明らかにする	18～22年度	435	カワラナカイガラムシの被害拡大の原因が明らかとなった。また、被害材では天敵微生物が繁殖し、被害が終息に向かう可能性があることが明らかとなった。被害材の一部はシイタケ栽培用の原木として利用できる可能性が示された									
集材材工場における生産効率化のための品質管理技術の開発	集材材工場の生産効率に影響を及ぼす品質管理上の課題を解決することを目指す。入荷ラミナの強度分布特性を目的に、入荷ラミナの接合特性評価による最適な接合条件及び剥離等の発生機構の解明を行う	19～21年度	783	試験材を処理するための装置を開発し、接合強度および破壊強度に関する試験に着手した。また、接合率が高くなる過程での変化を測定するための計測システムを開発し、接合率の性質・性能に関する試験を開始した									

19年度の主な研究テーマ	研究概要	研究期間(年度)	19年度研究費支出額(千円)	研究成果
山梨類の栽培技術に関する研究	これまでの研究で増殖可能な知見が得られたモミジガサ、サルナシ、ハネソノソク、ウキギ等に関して、収量性、低コスト化に対する研究を行う	14～20年度	343	ウキギ、モミジガサ、サルナシの管理法の確立を行い、栽培マニュアルの作成を行った。また、調理方法等の利用法についての検討を行った。ハネソノソクの増殖法を確立した
19年度に実施した研究テーマの総数		24件		

機関名	山梨県工業技術センター						
所在地	甲府市大津町2004						
設置目的	地域企業の技術力の向上、創造的技術開発を支援するために、工業の改良発達に必要な研究及び指導等を行う						
設置時期	昭和61年4月(食品工業指導所、研磨工業指導所、メリヤス工業指導所、木工指導所、機械金属工業指導所の5所統合による)						
組織体制	<p>(H19.4.1現在)</p> <p>所長 1名 副所長 1名 その他1名</p> <p>次長 1名 その他1名</p> <p>研究員3名</p> <p>特別研究員 1名 研究員1名</p> <p>研究管理幹 研究員3名</p> <p>総務課 重点研究推進チーム 技術高度化総合相談窓口 企画情報部 企画科 技術情報科 生活技術部 食品酒類・バイオ科 ニット縫製・木工科</p> <p>資源利用技術部 研磨宝飾科 工業材料科 化学環境科</p> <p>電子技術部 電子応用科 システム開発科 高度技術開発部 高精密加工科 高微細加工科</p> <p>デザイン技術部 デザイン振興科 デザイン開発科 ライオンセンター</p> <p>研究員33名 その他1名 研究員4名 研究員3名</p> <p>研究員1名 研究員3名 研究員1名 研究員1名 研究員5名 その他1名</p> <p>研究員3名 その他1名 研究員3名 研究員1名 研究員3名 研究員1名 研究員3名</p> <p>研究員2名 その他1名 研究員2名 研究員2名 その他2名</p>						
研究職	49 (1)	5	0	2	8	5	69 (1)
行政職(事務)							
行政職(技術)							
現業職							
臨時職員							
非常勤職員							
計(人)							
①技術支援業務 (技術相談、依頼試験、設備利用等の実施)							
②研究開発業務 (経常研究、重点化特研究、総合理工学研究機構関連研究、受託研究など)							
③人材育成業務 (高度技術人材育成研修、技術講習会、技術者研修、出前技術講座など)							
④技術提供業務 (年報、研究報告書、センターニュース等の発行、学会誌類の収集)							
⑤職員研修業務 (国立試験研究機関、大学、企業、中小企業大学校などへの職員派遣研修)							

19年度の研究テーマ	研究概要	研究期間(年度)	19年度研究費支出額(千円)	研究成果
19年度の研究テーマ	燃料電池用セパレータを軽量・薄型化することを目的とし、金属ガラス製セパレータの適用について検討した	16～19年度	11,069	金属ガラスの耐食性を評価し、かつ簡易な流路を作成することによりセパレータへの適用の可能性を明らかにした。また、有酸素法を用いた弾塑性変形解析に基づき型を製作しプレス加工することにより、単セル用セパレータを製作する事が可能となった
19年度の研究テーマ	県内23圃場で栽培されたブドウから38種類のワイルドを醸成し、果汁およびワイルドの各種成分やワイルドの香気等について比較検討した	17～19年度	6,498	ブドウ果汁中の各種成分量や組成比には大きな圃場間差異が認められ、これらが発酵速度やワイルドの各種成分量、香りの評価等へ影響を与えることが明らかとなった
19年度の研究テーマ	日本産モモ果肉に微量に存在するアレルゲンタンパク質の抽出・精製法とアレルゲンの検出に関する条件について検討を行った	19～20年度	3,488	モモからのアレルゲン抽出・精製方法およびアレルゲンの特異的検出方法を確立することができた
19年度の研究テーマ	レーザー加工によるマイクロ加工技術を応用し、マイクロ分析システムの設計、試作を行った	17～19年度	392	用途・機能・分析内容として、「重力駆動法」による「血球計数」「血液変形能観察」を提案し、マイクロ流体デバイス製作と機能評価を行った
19年度の研究テーマ	手漉き和紙製品の新たな活路の開拓を目的に、天然由来素材の利用や環境に配慮した加工方法、インテリジェント製品としてのチカイオン展開等について検討を行った	18～19年度	524	果樹の剪定枝から抽出した染料を利用した、地域特性を有する特徴のある和紙製品を開発できた
19年度に実施した研究テーマの総数			44件	